

1. 件名：福島第一原子力発電所における実施計画の変更認可申請（大型廃棄物保管庫の架台等の設置）に係る面談
2. 日時：令和5年8月8日（月）10時30分～12時10分
3. 場所：原子力規制庁 6階会議室
4. 出席者  
原子力規制庁 原子力規制部  
東京電力福島第一原子力発電所事故対策室  
新井安全審査官、椎名係長、植木技術参与（テレビ会議システムによる出席）  
検査グループ専門検査部門  
山元首席原子力専門検査官、丸山主任原子力専門検査官  
東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー  
プロジェクトマネジメント室 担当3名（テレビ会議システムによる出席）  
福島第一原子力発電所 担当16名（うち10名テレビ会議システムによる出席）

## 5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）より、資料に基づき、現状の大型廃棄物保管庫建屋の橋形クレーンの使用前検査に対する考え方及び耐震性の計算方法について、説明があった。
- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について主に以下のコメントを伝えた。
  - 橋形クレーンの使用前検査に当たって、当該クレーンに要求される機能（落下防止機能等）を整理した上で、必要とされる検査の確認事項を資料に示して説明すること。
  - フックと吊り荷を繋ぐ治具の構造及び強度の詳細について、資料に示して説明すること。
  - ワイヤロープとフックの各定格荷重及び安全率から算出したそれぞれの許容荷重について、メーカーが保証している範囲に収まるのか確認するなど、許容値としての妥当性を資料に示して説明すること。
  - 吊荷に作用する衝撃荷重の計算方法に記載されているワイヤロープ長さ  $L_w$  と吊荷の最大速度  $V_1$  及びトロリの最大速度  $V_2$  の算出過程に加えて、ワイヤロープのバネ係数  $K_w$  の算出に必要な断面積やヤング率の出典も資料に示して説明すること。
  - 走行レールクリップ基礎ボルトのコンクリート評価について、JEAG4601-1991 追補版に示される評価法は頭付きスタッドボルトに対するものであるが、今回使用している J 型ボルトの評価への適用性を資料に示して説明すること。また、J 型ボルトを用いた理由を説明すること。
  - 加振方向ごとの固有値解析結果を示している理由について、解析モデルの違いを含め説明すること。
- 東京電力から、上記コメントについて了解した旨の回答があった。

## 6. その他

資料：

- 大型廃棄物保管庫橋形クレーンの耐震性についての計算書（案）

以上